

北海道旭川東高等学校〈定時制〉令和6年度学校経営シラバス

校訓 生をよこべ 矩にしたがえ 全力をつくせ	スクール・ミッション (1) 社会人としての基本的な資質を身に付け、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、自ら課題解決していく生徒を育成する。 (2) 豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒を育成する。 (3) 学校教育目標と学校標語「シマレ ガンバレ」に基づき、社会人としての基礎・基本を身に付け、持続可能な地域の創り手としての資質・能力を身に付け、社会に貢献できる有為な人材を育成する。	育成する生徒像 (1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自らの感性や創造性を磨く生徒。 (2) 持続可能な地域の創り手としての資質・能力を身に付けた生徒。 (3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶し、笑顔で生活できる生徒。 育成を目指す資質・能力 (1) 行動力 (2) 協働力 (3) 自己指導力	学校標語 『シマレ ガンバレ』 (昭和8年制定) 『拳校大和』 (昭和32年制定)
-------------------------------------	--	---	--

- 経営方針**
- 1 スクールミッションを果たすため、保護者等や地域と協働して不断の改善を行う。
 - 2 今日的課題の解決に積極的に取り組む。(ICT、働き方改革、Well-being の向上)
 - 3 教職員が「学び、学び合う」学校、生徒を主語にする学校づくりに努める。

教育活動				
領域	中期目標	今年度目標	目標達成のための具体的方策・評価の観点	関連分掌等
学習指導	意欲的に学び続けることができる力の育成	教育課程の充実	新学習指導要領を踏まえて、人間性豊かな生徒を育成し、生徒・保護者等や地域等の負担に応える教育課程を編成・実施・評価し、改善する PDCA サイクルを確立することができたか。	教務部、教科
		生徒の自己肯定感の向上	学習活動をおして「わかる」「できる」喜びを実感し、学ぶ意欲の向上を図りながら、生徒自らあり方や生き方に結びつくよう取り組むことができたか。	教務部、教科
		授業規律に係る自律的行動の促進	不用意な遅刻・欠席・早退をなくし、授業を受けるための基本的マナーや規律について生徒が理解し、自ら律して行動するよう取り組むことができたか。	教務部、生徒指導部、学年
生徒指導	共通理解と生徒理解の上に立った自覚、責任ある、自律的な行動の育成	行事等への自主的・主体的参加	学校行事等において、身に付けるべき資質・能力や目的を目指し、生徒自身が自主的・主体的に学校行事等に参加できていたか。	生徒指導部、学年
		自己指導力の向上	学習や生活における生活心得について、生徒自身が自分事として自主的に守る姿勢を身に付け、社会規範遵守の姿勢を育てることができたか。	生徒指導部、学年
		いじめ防止対策の充実	法令や条例、学校いじめ防止基本方針に基づいて、「いじめ見逃しゼロ」を目指し、生徒に寄り添いながら組織的に対応するとともに、方針の周知及び見直しに際しては、生徒・保護者等及び地域に意見を求めるなど、適切に対応できているか。	生徒指導部、学年
		諸活動をととした人間関係づくりと人格形成	生徒自身が学校行事や部・同好会活動等に積極的かつ継続的に参加し、よりよい人間関係や人格形成が図れるよう努めていたか。	生徒指導部、部顧問
進路指導	体験的な学習をととした中長期的なキャリア形成	キャリア形成の充実	総合的な探究の時間において外部支援団体の講演等を活用し、マナー習得や就労意欲につながるよう取り組み、生徒自らがキャリア形成を図れたか。	教務(進路)、学年
		生徒の状況を踏まえた適切な進路指導の実践	保護者等の理解と協力のもと、生徒自らが適切な情報を選択して早期に進路目標を定め、自己実現に向けて主体的に取り組んでいたか。	教務(進路)、学年
健康・安全指導	発達支持的指導による自己管理能力の育成	個別支援体制による自立的生活の確立	教職員が生徒個々の家庭環境や困り感を把握し、支援が必要な生徒の指導計画を作成・共有する中で、生徒自身社会人としての基本的な資質を身に付け、自立的な生活を確立できたか。	生徒指導部、学年
		自己管理能力の向上	危機管理マニュアルに基づき、健康で安心・安全な学習環境を維持し、生徒自らが自己管理能力を身に付けることができたか。	生徒指導部
		自己理解の深化と人間性・社会性の獲得	客観的なアセスメントを活用し自己理解を深めるとともに、発達支持的指導をおして多様性を認め合い、豊かな人間性や社会性を身に付けることができたか。	生徒指導部、学年
学 校 経 営				
領域	中期目標	今年度目標	目標達成のための具体的方策・評価の観点	関連分掌等
地域に信頼される学校づくり	保護者等や地域との協働	学校評価の活用	学校評価を真摯に受け止め、具体の改善につなげることができたか。	教務部、教頭
		積極的な情報発信	教育活動を適宜配信し、中学生、保護者等、地域のニーズに応える発信ができているか。	教務部、教頭
		保護者等のニーズ把握	保護者等面談・三者面談、家庭訪問等、保護者等との参加・交流の機会を増やし、協力と支援を得ながら理解を深めることができたか。	各分掌、学年、教頭
組織運営	今日的課題への対応	会議等の効率化	ICT 機器の活用、資料の事前配布や説明の簡略化など、目的を明確にした効率的な会議となっているか。	各分掌
		分掌組織の活性化	月例の分掌会議や定期的な委員会を実施し、各分掌・委員会の課題を明確にし、改善に向けた取り組みを検討・実施できたか。	各分掌
		働き方改革の取組	教職員の意見を積極的に取り入れるなど、持続可能な学校体制の整備が図られたか。	各分掌
教職員の資質向上	本校教職員としての自覚と責任の共有	授業研究の充実	生徒の実態を把握し、個別最適な学びと協働的な学びを保障するとともに、生徒の資質・能力を伸長するために、ICT の効果的な活用ができているか。	教務部、各教科
		校内研修の充実	教員自身が「学び、学び合う」ことで、生徒のロールモデルとなっているか。学びのねらい(目的)を明示し、生徒が成就感や達成感を味わえるよう振り返りの機会を設け、観点別評価による指導と評価の一体化が図れているか。	管理職、教務部、各教科
		不祥事防止のための職場環境の整備	教職員同士に嗜好や愚痴を共有できるコミュニケーションがあり、不祥事が起こりにくい職場環境となっているか。	管理職